

2024(令和 6)年度
事業計画書

社会福祉法人 啓真会
大友中央保育園

もくじ

1. 事業運営と基本方針

- (1) 2024 年度の保育所入園予定児童数と定員
- (2) 職員の配置について

2. 年間行事について

3. 施設設備について

- (1) 園舎の現状と修繕

4. 指導計画

- (1) 全体的な計画
- (2) 避難訓練年間計画
- (3) 防災計画
- (4) 不審者対応防犯訓練年間指導計画
- (5) 食育計画
- (6) 体力づくり年間計画
- (7) 年間保健計画
- (8) 交通安全年間指導計画

1. 事業運営と基本方針

(1)2024 年度の保育所入園予定児童数と定員

入園児童数 (令和 6 年 3 月 1 日現在)			
入所年齢	2024 年 3 月 1 日現在	2024 年 4 月 1 日予定数	摘 要
	定員 50 名	定員 50 名	
0 歳児	6 名	1 名	
1 歳児	8 名	7 名	
2 歳児	6 名	8 名	
3 歳児	9 名	6 名	
4 歳児	10 名	9 名	
5 歳児	8 名	10 名	
合 計	47 名	41 名	

定員を 50 名に変更し、入所率の向上に努める。

未満児の枠に空きがみられるので、年度途中には定員を満たせる見込み。

昨年度に引き続き、SNS や保育園バスを利用して知名度を広めていきたい。

(2)職員の配置について

保育士 (最低基準)

	在 所 児 童 数 (人)	児 童 対 す る必要数(最 低基準)	必要人員	現員 (人)	うち 常 勤 保 育 士	うち 非 常 勤 保 育士
0 歳児	1	3:1	0.3	1	1	0
1 歳児	7	6:1 (3:1)	2.3	2	2	0
2 歳児	8	6:1	1.3	2	2	0
3 歳児	6	15:1	0.4	1	1	0
4・5 歳児	19	25:1	0.6	1	1	0
フリー	90 人以下 1 名加配分		1	1	1	0
	保育標準時間対応(常)		1	1	1	0
	保育標準時間対応(非)		1	1	0	1(無資格)
障害児加配			1	1	0	1(無資格)
計	41		8.5	11	9	2
専任加算をとる場合の主任保育士			1	1	1	0
合計				12	10	2

その他の職員

職種	必要人員（人）	現員（人）
所長（園長）	所長設置単価を適用 1 人	1
嘱託医	内科医	1
	歯科医	1
調理員	定員 4 0 人以下 1 人	2
	定員 4 1 人以上 1 5 0 人以下 2 人	
	定員 1 5 1 人以上 3 人	
看護師または准看護師	乳児 9 人以上の場合 1 人	0
保育業務の補助者（無資格）		2
雇上費加算をとる場合の事務職員	1 人	1
その他職員		1
育児休暇中		0

2. 年間行事について

※別冊「保育園の案内 年間行事予定一覧表」参照

3. 施設設備について

（1）園舎の現状と修繕箇所

- ・令和 6 年 1 月 1 日の地震により、ボイラーが故障してしまい修繕不可能となったのっで、お遊戯室のエアコンの増設及び年長児保育室のエアコンの設置をおこないたいと思う。
- ・調理室のエアコンやグリスフィルターなどの清掃を調理員がおこなっているが、油汚れなど綺麗に取り除くことが難しく、年に 1 回程度専門業者に依頼して衛生的に維持していきたい。

4. 年間指導計画

- （1）全体的な計画
- （2）避難訓練年間計画
- （3）防災計画
- （4）不審者対応防犯訓練年間指導計画
- （5）食育計画
- （6）体力づくり年間計画
- （7）年間保健計画
- （8）交通安全年間指導計画

2024年度 避難訓練年間指導計画

大友中央保育園

年間目標

- ・災害時、子どもの生命を第一とし、安全な場所に避難誘導する。
- ・訓練を繰り返し行い被害を最小限にとどめる。

<ねらい> ○生命の大切さを知る。 ○いろいろな避難方法を知る。

月	訓練の種類	内 容	保育者の配慮
4月	避難訓練の話 を聞く	・避難訓練について知る。 ・非常時の合図を知る。 ・「おかしめ」の約束を知る。押さない、 かけない、しゃべらない、もどらない	・紙芝居、絵本などを使い、恐怖心を持たせないようにする。 ・役割分担、未満児の避難についての協力体制の確認。0、1歳児窓からの 搬出模擬訓練 ・避難経路、避難用具の確認
5月	火事(近くの民 家より出火)	・速やかに集合し、保育者の指示に従 う。(お遊戯室に避難)	・慌てず静かに指示を聞くようにする。 ・保育者の指示に従って、スムーズに避難できるように誘導する。 ・避難後速やかに点呼確認し、逃げ遅れた子どもがいらないか確認する。
6月	地震	・地震の避難方法を知る。 ・保育者の指示をよく聞き、机の下等安 全な所で揺れのおさまるのを待つ。 ・防災用ヘルメットの着用方法を知る。	・落下物等でけがをしないように安全な所に身を寄せる。 ・恐怖心を持たせないように揺れがおさまるまで動かないように話す。 ・保護者への連絡体制の確認をする。
7月	水害	・水害・水の事故などについて知る。	・気象情報に注意を払い、早めに安全な場所に避難をする。
8月	火事(給食室よ り出火)	・給食室より出火を想定して、非常口よ り園舎前に集合	・煙の怖さを知らせ、吸わないようにする。 ・点呼をとったクラスから交通事故に気を付けて避難する。 ・日常から迅速に安全に行動できるように心がける。
9月	地震(自由遊び 中)	・安全な場所で揺れのおさまるのを待 ち、担任以外の保育者の指示に従い行 動する。	・担任にかかわらず、近くにいる保育者のところに集まることを徹底する。
10月	火事	・速やかに集合し、保育者の指示に従 う。	・煙の怖さを知らせ、吸わないようにする。 ・点呼をとったクラスから交通事故に気を付けて避難する。 ・日常から迅速に安全に行動できるように心がける。
11月	地震	・保育者の指示をよく聞き、机の下等安 全な所で揺れのおさまるのを待つ。	・出口での混乱に気を付ける。 ・靴の履けない子は援助し、持って出てからはくなどの工夫をする。
12月	火事(自由遊び 中)	・給食室より出火を想定して、非常口よ り園舎前に避難する。	・担任にかかわらず、近くにいる保育者のところに集まることを徹底する。
1月	地震	・安全な所で揺れがおさまるのを待つ。 ・保育者の指示に従い行動する。	・出口での混乱に気を付ける。 ・コートを手に持ち、すぐに集合する。 ・非常口を除雪し、避難経路を確保する。 ・雪で歩道が狭くなっているため、安全に留意して避難する。
2月	火事(近所の民 家にて火災発 生)	・速やかにお遊戯室に集合し、保育者 の指示に従う。 ・落ち着いて整列する。	・出口での混乱に気を付ける。 ・コートを手に持ち、すぐに集合する。 ・非常口を除雪し、避難経路を確保する。 ・雪で歩道が狭くなっているため、安全に留意して避難する。
3月	火事(午睡中)	・午睡中における避難を徹底する。	・目覚めの悪い子や掛布団等で子どもの姿が見えにくくなっていること等か ら、人数確認や避難方法の確認をする。

令和6年度 防災計画

役割分担表

大震災時の役割	
伊南明子園長	○統率 ○指揮・命令 ○区役所へ報告
田辺和美主任保育士	○園長の補佐 ○園児・園舎の状況把握 ○貴重品の確保 ○避難先の掲示 ○ガスの元栓を閉める ○電気のブレーカーを落とす ○応急手当
鈴木美貴保育士	○クラスの人数確認 ○避難誘導 ○応急手当
片桐茜保育士	○クラスの人数確認 ○避難誘導 ○応急手当
石田麻美保育士	○クラスの人数確認 ○避難誘導 ○応急手当
明間杏奈保育士	○クラスの人数確認 ○避難誘導 ○応急手当
鈴木由衣保育士	○クラスの人数確認 ○避難誘導 ○応急手当
鈴木朋子調理員	○ガスの元栓を閉める ○電気のブレーカーを落とす ○飲料水、ミルク等非常食の確保
その他職員	○クラス担任の補佐

軽微な地震時の役割	
伊南明子園長	○被害状況の確認 ○区役所への報告(優先順位1番)
田辺和美主任保育士	○被害状況の確認 ○区役所への報告(優先順位2番)

※上記表は、毎年作成し各区指導保育士へ提出する。(提出期限4月末日。)

※園内に掲示し、職員へ周知徹底する。

職種	役割の内容
園長	☐ 直ちに園全体の状況把握に努めるとともに、テレビ、ラジオ等より情報を収集し、的確な指示を職員に与える。 ☐ 区役所に被災の状況、園児の状況、園児数などを報告する。なお、電話が不通となり全市的な被害が発生している場合は、まず園児の安全確保を優先し、報告は防災無線等により落ち着いてから行う。 ☐ テレビ、ラジオ及び主任保育士などの報告をもとに敷地外へ避難が必要と判断した場合には速やかに指示する。 ☐ 避難の際は、ガス、電気の元栓。貴重品や食料。職員数と園児数などの最終チェックを行う。 ※市防災無線の主な設置場所⇒小中学校などの避難所、区役所、出張所、ライフライン関係機関、消防、警察等。
主任保育士	☐ 園児の安全及び職員の対応について把握するとともに園舎の被害状況を確認するため、園内の巡視を行い、速やかに園長へ報告する。 ☐ 避難する際は、登降園簿、非常持出用品(普段から決めておくこと)、緊急連絡カードなどの貴重品を持つ。飲料水、食料などを確認する。 ☐ 園長が不在の場合にあっては、園長の職務を代行する。
担任保育士	☐ 安全な場所に園児を避難させる。 ☐ 園児の点呼、けがの有無などを確認し、併せて火の始末、施設の破損(ガラスの破損など)についても主任保育士に報告する。 ☐ 事前に主任保育士が不在の場合の代行役を決めておく。
給食調理員	☐ 調理室のガス器具のスイッチと元栓を閉める。 ☐ 飲料水、非常用食料の確認をし、避難する際は持ち出す。 ☐ 調理設備の状況、飲料水や食料の状況などを主任保育士に報告する。 ☐ 避難時には、保育士とともに園児の安全確保に努める。

職員参集				
	班割	職員名	参集場所	役割
第1班	責任者	伊南明子(園長) 田辺和美(主任保育)	保育園、本部	被害状況確認
第2班	1 k m圏内居住者	吉倉清美(保育士)	保育園、本部	連絡補助
第3班	5 k m圏内居住者	鈴木由衣(保育士) 明間杏奈(保育士) 鈴木朋子(調理員)	保育園、本部	避難所設置、 災害本部設置
第4班	1 0 k m圏内居住者	田口智子(保育士)	指示による	
第5班	圏外居住者	鈴木美貴(保育士) 石田麻美(保育士) 片桐茜(保育士) 佐藤いずみ(調理員)	指示による	

不審者対応防犯訓練年間指導計画

年間目標

- 園舎の安全管理に常に配慮し、外部からの侵入者の侵入を防ぐ。
- 被害発生時に混乱することなく、スムーズに避難できるように、入所児童を含めての避難訓練を反復して行う。

<ねらい>

- ・不審者に近づかないことを知る。
- ・身を守る方法を知る。
- ・全職員は子どもを守るために状況に応じた適切な行動がとれるよう訓練を行う。

月	訓練の種類	内 容	保育者の配慮
4月	職員で対応マニュアルを確認する。	不審者対応マニュアルを確認する。	散歩の場所や通行経路の安全について検討を行い、周知する。
5月	安心、安全について知る。	子ども自身が安全、安心について考える。 「いかのおすし」を知る。 行かない、乗らない、大声を出す、すぐ逃げる、知らせる	お話や紙芝居を通して、安心、安全について知らせる。
6月	不審者侵入	玄関より侵入したことを想定し、子どもの安全を確保しながらマニュアルに沿って避難する。	子どもたちに不安を持たせないように配慮する。
7月	いろいろな場合の不審者侵入対応について確認しあう	ベランダ・非常口等の侵入に対しての子どもの安全確保について確認しあう。	具体的な想定について話し合い適切な行動がとれるようにする。
8月	プール遊びでの不審者目撃	プール遊びでの不審者対応を行う。	子どもたちに不安を持たせないように配慮する。 施設管理や防犯対策の徹底
9月	散歩時、不審者と遭遇	保育者の指示に従い迅速に行動する。	不審者対応と子どもの安全確保に努める。 職員の役割分担を臨機応変に行う。 園外に行くときは、携帯電話・警報ベル等を持参する。
10月	不審者侵入	ベランダより侵入したことを想定し、子どもの安全確保しながらマニュアルに沿って避難する。	子どもたちに不安を持たせず移動させる。
11月	不審者侵入	お遊戯室非常口より侵入したことを想定し、子どもの安全確保しながらマニュアルに沿って避難する。	子どもたちに不安を持たせず移動させる。
12月	誘拐や連れ去り	様々な場面を想定して子どもたちと共に考えながら知らない人に声をかけられたらどうするかを考える。	紙芝居やペープサートを使って、お話の中のこととして不安を持たせないように配慮する。
1月	職員に対する指導と訓練	防犯を意識した日ごろからの対応 不審者への対処法 安否確認と関係者関係機関への連絡 緊急連絡の要領	安全管理について職員間の意識を高める。
2月	安心安全について再確認する。	「いかのおすし」を再確認する。 行かない、乗らない、大声を出す、すぐ逃げる、知らせる。	特に、年長児は就学を控えひとりで行動する機会が増えるため、安心安全の理解を深める。
3月	対応マニュアルについて検討	今年度の取り組みについて反省評価をする。	不審者対応について問題点がないか話し合い、次年度につなげていけるようにする。

2024年度 食育計画 施設名 大友中央保育園									
保育園の目標									
年齢	6か月未満	6か月～1歳未満	1歳～1歳6か月未満	1歳6か月～2歳未満	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	関係者
ねらい	○安定した人間関係の中でミルクを飲む、心地よい生活を送る。	○食べ物を見る、触る、味わう経験を通して自分で食べようとする。	○保育者の真似をして食事の接し方を身につける。	○保育者の友達と楽しい雰囲気の中で、自分で食べようとする。	○楽しい雰囲気の中で、友達や保育者と一緒に食事をし、スプーンやフォークを正しく持ち、持ち上げて食べる。	○食事の準備から片付けまでの流れを知る。	○食事の準備から片付けまでの流れを理解し、自分でやるようになる。	○身近な人と楽しみながら、食事のマナーや正しい食べ方を身につける。	園長 主任
	○空腹を感じる食事のリズムを覚える。	○意欲的に食事に関わろうとする。	○食事の友達と楽しい雰囲気の中で、自分で食べようとする。	○楽しい雰囲気の中で、友達や保育者と一緒に食事をし、味や触覚を知る。	○食事の準備から片付けまでの流れを知る。	○食事の準備から片付けまでの流れを理解し、自分でやるようになる。	○身近な人と楽しみながら、食事のマナーや正しい食べ方を身につける。	○自分の体に必要な食品の種類や働きを知る。	
内 容									
健康	○よく遊び、よく眠る、満足するまで乳を飲む。	○よく遊び、よく眠り、食事を楽しむ。	○よく遊び、よく眠り、食事を楽しむ。	○よく遊び、よく眠り、食事を楽しむ。	○よく遊び、よく眠り、食事を楽しむ。	○様々な食べ物をする中で食べる。	○様々な食べ物をする中で食べる。	○様々な食べ物をする中で食べる。	園長 主任
	○お腹がすいたら泣く、泣く、また泣く。	○いろいろな食べ物に関心を持ち、スプーン、フォークを使って自分から意欲的に食べようとする。	○いろいろな食べ物に関心を持ち、スプーン、フォークを使って自分から意欲的に食べようとする。	○いろいろな食べ物に関心を持ち、スプーン、フォークを使って自分から意欲的に食べようとする。	○いろいろな食べ物に関心を持ち、スプーン、フォークを使って自分から意欲的に食べようとする。	○慣れない食べ物や嫌いな食べ物にも挑戦する。	○慣れない食べ物や嫌いな食べ物にも挑戦する。	○慣れない食べ物や嫌いな食べ物にも挑戦する。	
人間関係	○保育者に抱かれて乳を飲む。	○授乳してくれる人に関心を持つ。	○授乳してくれる人に関心を持つ。	○授乳してくれる人に関心を持つ。	○授乳してくれる人に関心を持つ。	○身近な大人や友達とともに、食事をすすめる喜びを味わう。	○身近な大人や友達とともに、食事をすすめる喜びを味わう。	○身近な大人や友達とともに、食事をすすめる喜びを味わう。	園長 主任
	○ひとりひとりの子どもの安定した生活リズムを大切にしながら、心と体の発達を促すように配慮する。	○ひとりひとりの子どもの安定した生活リズムを大切にしながら、心と体の発達を促すように配慮する。	○ひとりひとりの子どもの安定した生活リズムを大切にしながら、心と体の発達を促すように配慮する。	○ひとりひとりの子どもの安定した生活リズムを大切にしながら、心と体の発達を促すように配慮する。	○ひとりひとりの子どもの安定した生活リズムを大切にしながら、心と体の発達を促すように配慮する。	○身近な大人や友達とともに、食事をすすめる喜びを味わう。	○身近な大人や友達とともに、食事をすすめる喜びを味わう。	○身近な大人や友達とともに、食事をすすめる喜びを味わう。	
食文化	○ひとりひとりの子どもの発達を、発達を適切に把握し、家との連携をとりながら発達を促すように配慮する。	○ひとりひとりの子どもの発達を、発達を適切に把握し、家との連携をとりながら発達を促すように配慮する。	○ひとりひとりの子どもの発達を、発達を適切に把握し、家との連携をとりながら発達を促すように配慮する。	○ひとりひとりの子どもの発達を、発達を適切に把握し、家との連携をとりながら発達を促すように配慮する。	○ひとりひとりの子どもの発達を、発達を適切に把握し、家との連携をとりながら発達を促すように配慮する。	○身近な大人や友達とともに、食事をすすめる喜びを味わう。	○身近な大人や友達とともに、食事をすすめる喜びを味わう。	○身近な大人や友達とともに、食事をすすめる喜びを味わう。	園長 主任
	○母乳育児を希望する乳児の発達のために母乳育児による授乳に配慮する。	○母乳育児を希望する乳児の発達のために母乳育児による授乳に配慮する。	○母乳育児を希望する乳児の発達のために母乳育児による授乳に配慮する。	○母乳育児を希望する乳児の発達のために母乳育児による授乳に配慮する。	○母乳育児を希望する乳児の発達のために母乳育児による授乳に配慮する。	○身近な大人や友達とともに、食事をすすめる喜びを味わう。	○身近な大人や友達とともに、食事をすすめる喜びを味わう。	○身近な大人や友達とともに、食事をすすめる喜びを味わう。	
食の興味	○食欲と人間関係が密接な関係にあることを認識し、愛情豊かな特定の大人との継続的な関わりを、子どもの発達段階、愛着の基礎となることに配慮する。	○食欲と人間関係が密接な関係にあることを認識し、愛情豊かな特定の大人との継続的な関わりを、子どもの発達段階、愛着の基礎となることに配慮する。	○食欲と人間関係が密接な関係にあることを認識し、愛情豊かな特定の大人との継続的な関わりを、子どもの発達段階、愛着の基礎となることに配慮する。	○食欲と人間関係が密接な関係にあることを認識し、愛情豊かな特定の大人との継続的な関わりを、子どもの発達段階、愛着の基礎となることに配慮する。	○食欲と人間関係が密接な関係にあることを認識し、愛情豊かな特定の大人との継続的な関わりを、子どもの発達段階、愛着の基礎となることに配慮する。	○身近な大人や友達とともに、食事をすすめる喜びを味わう。	○身近な大人や友達とともに、食事をすすめる喜びを味わう。	○身近な大人や友達とともに、食事をすすめる喜びを味わう。	園長 主任
	○食事と心身の健康とが、密接な関係があることを認識し、愛情豊かな特定の大人との継続的な関わりを、子どもの発達段階、愛着の基礎となることに配慮する。	○食事と心身の健康とが、密接な関係があることを認識し、愛情豊かな特定の大人との継続的な関わりを、子どもの発達段階、愛着の基礎となることに配慮する。	○食事と心身の健康とが、密接な関係があることを認識し、愛情豊かな特定の大人との継続的な関わりを、子どもの発達段階、愛着の基礎となることに配慮する。	○食事と心身の健康とが、密接な関係があることを認識し、愛情豊かな特定の大人との継続的な関わりを、子どもの発達段階、愛着の基礎となることに配慮する。	○食事と心身の健康とが、密接な関係があることを認識し、愛情豊かな特定の大人との継続的な関わりを、子どもの発達段階、愛着の基礎となることに配慮する。	○身近な大人や友達とともに、食事をすすめる喜びを味わう。	○身近な大人や友達とともに、食事をすすめる喜びを味わう。	○身近な大人や友達とともに、食事をすすめる喜びを味わう。	
援助と配慮	○食事と心身の健康とが、密接な関係があることを認識し、愛情豊かな特定の大人との継続的な関わりを、子どもの発達段階、愛着の基礎となることに配慮する。								

体力作り年間計画

2024年度

施設名 大友中央保育園

四季折々の自然の中で体を使って遊んだり、散歩をして体力をつける。
園目標： いろいろな遊具や用具を使って、運動遊びを楽しむ。

年 齢	ね ら い	活 動 内 容	環 境 構 成 及 び 配 慮
0歳児	- 保育者とふれあい遊びを通してそれぞれの月齢と発達に合った体を使ったり遊ぶを楽しむ。 - 体調の変化に気を配りながら、お散歩などで自然を感じ、公園や近所を歩いてカートに乗って散歩を楽しむ。	- おもちゃを使って、傳返りや擬似での遊びを誘ったり、はいはいを促したりする。 - 保育者と触れ合いながら全身の動きを誘う。 - 公園や近所を歩いてカートに乗って散歩を楽しむ。	- おもちゃは口に入れられたりするので、常に清潔に保つ。 - 愛情に満ちた接し方で情緒の安定を図りながら自然な形で体を使った遊びに誘う。 - 気候や一人一人の体調に配慮し健康で気持ちよく過ごせるようにする。
1歳児	- 公園や散歩など戸外で遊ぶ時間を多く持ち気持ちよく過ごす。 - 保育者や友達と一緒に体を動かす遊びを楽しむ。 - 音楽や歌に合わせて体を動かして楽しむ。 - 食事、排泄、睡眠などの生活リズムを整えて一日を機嫌よく快適に過ごす。	- 保育者と手をつないで歩いたり、カートに乗って出かけた後、公園の遊具で遊ぶ。 - 散歩ロープにつかまって歩く。 - 音楽に合わせて体操や踊りをする。 - マットなどを活用して、上がる、滑る、転がる、跳ぶなどの全身運動を楽しむ。	- ひとひとりの発達段階を把握して援助の仕方を工夫する。(一人で歩く、手を引く、散歩ロープに捕まる、カートに乗せるなど) - 前後の時間をとり、つまづいたりぶつかったりしないようにする。 - 園々の好みなども考慮し、一緒に楽しめるものを見つけて無理なくできるように配慮する。 - 子どもとの興味や発想を大切にしながら、いろいろな動きを一緒に楽しめるように柔軟性を持って対応していく。 - 家庭との連絡を密にして体調を把握し、快適に過ごせるようにする。
2歳児	- 友達や保育者と一緒に全身を使った遊びを楽しむ。 - 体を使ったリズム遊びを楽しむ。 - 自然に触れて遊ぶ。	- 走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使った遊びを楽しむ。 - 戸外遊びや散歩を楽しむ。 - 公園の遊具などで遊ぶ。 - 簡単な曲や体操に合わせて体を動かして遊ぶ。 - 季節の遊びを楽しむ。(どろんこ、水遊び、落ち葉や木の葉ひろい、雪遊び) - どろんこ遊びや簡単な集団遊びを楽しむ。	- 一人一人の発達状況を把握して楽しく遊びが展開するように環境を整える。 - いろいろな運動遊びに挑戦しようとする気持ちを大切にしながら安全に遊べるように十分配慮する。 - 散歩は一人一人の歩くペースを考慮し、無理のないように行う。 - 公園の遊具の使い方を知らせ危険のないように安全に遊べるように配慮する。 - 簡単なルールを取り入れ追い追いつけっこをしたり、繰り返しのある集団遊びを取り入れ楽しめるようにする。
3歳児	- 遊具・用具を組み合わせて、全身を使って遊ぶ。 - 戸外で居いつまり体を動かして遊ぶ。 - 散歩や園外保育など自然に触れて遊ぶ。 - 友達や保育者とゲームやリズム遊びを楽しむ。 - 簡単なルールのある鬼ごっこやゲームを楽しむ。 - サッカー教室でボールを使って運動する。	- 公園の遊具や砂場、園外保育などを使って遊ぶ。 - 戸外遊びや散歩、園外保育を楽しむ。 - 簡単なゲームやリズム遊びを楽しむ。 - 季節の遊びを楽しむ。(どろんこ、水遊び、落ち葉や木の葉ひろい、雪遊び、正月遊びなど) - どろんこ遊びや簡単な集団遊びを楽しむ。	- 様々な遊びが展開するように遊具や玩具の安全に配慮する。 - 日々の遊びの中で無理なく取り入れていく。 - 一人一人の興味や関心、自分から表現しようとする気持ちが育つように配慮する。 - それぞれの季節を気持ちよく快適に過ごせるような環境の整備と工夫をする。
4歳児	- 保育者や友達と一緒に戸外遊びや散歩を楽しむ。 - 友達と一緒に全身を使って運動遊びを楽しむ。 - ゲームやリズム遊びを楽しむ。 - ルールのある遊びを楽しむ。 - サッカー教室でボールを使って運動する。	- 公園の遊具を安全に使って遊ぶ。 - 友達と散歩や簡単なゲームのかけっこ、鬼ごっこ、サッカーなどを楽しむ。 - マット運動や鉄棒、ポール、縄跳び、跳び箱などの遊具を使って遊ぶ。 - いろいろな曲に合わせて踊ったり、表現したりする。 - 季節の遊びを楽しむ。 (どろんこ、プール、木の葉や落ち葉拾い、雪遊び、正月遊びなど)	- 子どもたちが自分から遊びに取り組めるように環境を構築し、ひとりひとりの遊びや気持ちの変化を把握して必要に応じて環境を変化させる。 - 様々な運動遊びに意欲的に取り組めるように適切な介助や言葉かけをする。 - 園々のペースを大切にしながら頑張りを認めて自信へとつなげていく。 - 保育者も一緒に表現遊びを楽しみながら体を動かす楽しさを共有する。 - 運動しやすいつまみ時間を作る。 - 戸外でのびのびと体を動かし、運動機能を高めるような遊びを工夫する。 - いろいろな遊びが十分楽しめるように遊具を用意するとともに遊びの場を整えていく。
5歳児	- 積極的に戸外遊びを楽しむ。 - 公園遊び、散歩を楽しむ。 - リズム遊びや様々な運動遊びを楽しむ。 - ルールを理解して友達と運動遊びを楽しむ。 - 用具を使った遊びを楽しむ。 - サッカーの簡単なルールを理解して楽しむ。	- 鬼ごっこなどのルールのある遊びを楽しむ。 - 様々な用具や遊具を使い、身体思いきり動かして遊ぶ。(跳び箱、鉄棒、縄跳び、マット、ボール、サッカー) - 季節の遊びを楽しむ。 (どろんこ、プール、木の葉や落ち葉拾い、雪遊び、正月遊びなど)	- 共通のルールを理解して集団での遊び、身体を十分に使った遊びを工夫する。 - 考えながら(友達と相談しながら)行動する遊びの提案をする。 - 大好きな曲に合わせて集合、並ぶ、跳び箱と横跳びを繰り返したり、簡単なルールのある遊びをすることで、美しく運動体験を重ねられるように工夫する。 - 遊びの中に体力、リズム感、空間認知能力等を取り入れる工夫をする。

2024 年度 年 間 保 健 計 画 大友中央保育園

目 標	◎心身共に健やかな体をつくる ・明るくのびのびと行動し、充実感を持って生活する。 ・いろいろな遊びを通して体を動かす楽しさを知り、進んで運動する。 ・健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身につける。											
ね ら い												
年 齢 目 標 別 の	2か月以上 1歳未満 1歳以上 3歳未満 3歳以上 ・一人一人に合った生活リズムの中で、心身ともに健康に過ごす。食事、排泄、睡眠等、手伝ってもらいながら生活のリズムを整える。・寝返り、はいはい等の運動を十分にさせる。 ・手洗いの習慣を身につける。・排泄の習慣を身につける。・体を動かす。・十分に遊ぶ。 ・食事前、排泄後の手洗い、食後の歯磨きの習慣を身につける。・排泄の習慣が自立する。・健康、安全に必要な習慣や態度を身につける。友達と一緒に体を動かして遊ぶ。											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
目 標	・生活リズムを整え新しい環境に慣れる。 ・歯を大切にすること。 ・咳エチケットを知る。											
全 体 の 留 意 点	・感染症の早期発見に努め、予防対策をとる ・食中毒に注意する(手洗い、食事への注意) ・保育室の環境整備を行う(通風、換気、採光) ・虫歯予防とブラッシング指導を行う ・手洗いがいを習慣づける。											
保 健 行 事	○内科健診・尿検査(4. 5歳児) ○歯科健診 ○身体測定 ○アセスメント ○視力検査 ○内科健診											
保 護 者 連 携 の	・子どもの家庭での生活実態、健康状態、既往症や予防接種歴等について情報提供してもらうようにする。 ・日々の健康状況、健康診断結果および疾病や感染症情報及び予防などを伝え、健康への理解を深めるように働きかける。 ・保護者の理解と協力を得ながら、家庭と保育園の生活リズムがバランスよく整えられるように配慮し、健康増進の大切さについて伝える。 ・保育園の食育に関する活動について、家庭に情報を提供し、子どもの食生活に関する相談に応じたり、助言、支援を行う。 ・視力測定を通じて目の健康を知らせる。											
環 境 整 備	・保育室の温度、湿度、換気に留意する。 ・備品、玩具、園内外の整備など、安全点検を行う。 ・けがの予防に努め、戸外で全身運動をして、休息をとり、心身の疲れが癒されるようにする。 ・手洗い、消毒の徹底、園内や玩具の消毒を行う。											

交通安全年間指導計画				施設名	大友中央保育園
目 標	○交通事故から幼児の生命を守る。			ね ら い	○生命の尊さ、大切さを知らせる。 ○基本的な交通の決まりを知らせ、進んで守るようにする。 ○安全に行動ができるよう、習慣や態度を身につける。
期	1期	2期	3期	4期	
内 容	○正しい道路の歩き方 ・右側を歩く ・歩道、路側帯を歩く。 ○道路の正しい渡り方 ・横断歩道を渡る ・信号の意味を理解し守る。 ・左右の安全を確認する。 ○飛び出しをしない ・一旦止まることを身につける。 ・道路には飛び出さない。 ○乗り物の正しい乗り方 ・安全な乗り降りの仕方を知る。 ・チャイルドシートを着用する。 ○送迎バスに万が一取り残されたことを想定して、ク ラクションを鳴らす等の訓練をする。	○雨の日の交通安全 ・傘や雨具等の正しい扱い方を知る。 ・雨の日は、目立つものを身につける。 ・道路の水たまりで遊ばない。 ○危険な場所や危ない遊びを知る。 ・安全なところで遊ぶ。 ・路上、駐車場などで遊ばない。 ・自転車は保護者の目の届く安全な場所に乗る。 ○見通しの悪いところから飛び出しをしない。 ・止まっている車の直前、直後の飛び出しは危険が大 きいことを知る。	○危険な場所を知る。 ・身近な標識、標示を知る。 ・危険と安全の違いを知る。 ○基本的な交通の決まりを守り、安全な行動をする。 ・日常生活に必要な交通の決まりを知る。 ・車のマナーを知る。 ・車内でのマナーの再確認。 ・降車時の危険を知る。 ○生命の大切さを知る。 ・生命の大切さがわかる。 ・生命のあるものに愛情を持つ。 ・他人に思いやりのことを持つ。 ・すすんで生命を守る。	○寒い日の安全な歩き方を身につける。 ・冬の道路はすべりやすく、歩みにくいので危険であ ることを知る。 ・防寒をしているときの危険を知る。 ○交通安全の大切なことを再認識する。 ○生命の大切さがわかり、安全は自分で守らなけれ ばならないことを知り、守るようになる。 ○生命を守ってくれる人に感謝の気持ちを持つ。 ○就学後登下校を安全に行う方法を学ぶ。 ・標識を知り、意味を理解する。 ・信号の意味を確認する。	
保 育 士 の 配 慮	・右側通行、道路の渡り方、乗り物マナーなど、様々 な場面で繰り返し体得できるよう指導する。 ・日ごろの保育の中で、情緒の安定を図り、落ち着い た行動がとれるように心がける。 ・子どもの特性や個人差、発達、年齢差など考慮して 無理のない方法で身につくようにする。 ・保護者への協力を依頼する。交通安全について手 紙を配布する。 ・登降園の折に車や自転車などを利用している場合 は、特に飛び出しの危険性など安全に留意してもら う。 ・チャイルドシートの着用 ・家庭でも正しい交通ルールを身につけられるよう大 人が手本を示す。	・傘や雨具等で動きが悪く車が見えにくくなり危険が 多くなることを知らせる。 ・路上での遊び、駐車場や車の影での遊び、飛び出し の危険性などを具体的にわかるよう繰り返し教え、交 通事故の恐ろしさを知らせる。 ・地域・保育園周辺の危険箇所を調べておく。 ・日常子どもが遊んでいる場所の安全の確認	・散歩、園外保育での場面を用いて興味や関心を引き 出し、身近な大切なことということを感じられるようにす る。 ・紙芝居やペープサートなどを用いて、わかりやすく説 明する。ただ伝えるだけで終わらないように問いかけ などを行う。 ・単なる知識だけでなく、登降園、散歩などその場に応 じた適切な体験指導を繰り返し行う。 ・日常の楽しい遊びを通して自然に機敏性、判断力な ど安全への意識を高め、安全能力が身につくようにす る。 ・生命の大切なことをわかりやすく教えるとともに、生 命を守る心を育てるようにする。	・冬場の危険箇所、安全な通行方法、交通ルールな ど具体的に指導する。 ・年間の指導を振り返り、その成果を確かめ、不十分 なところを留意し指導する。 ・保護者や地域の人の協力によって、事故から守ら れていることを知らせる。 ・小学校入学に向けて、学校までの道を一緒に歩き 危険なところを話し合ってもらう。	

